

岐阜県で一番低い山 「石山」 登頂記

平成 29 年 4 月 20 日 天気=晴

岐阜県で一番低い山「石山」は海拔 47m、三角点はない。岐阜から東へ向かって走る名鉄各務原（かかみがはら）線の新加納駅が最寄り駅になり、駅から北へ 1.5Km ほどの所にある。

ホテルを 8 時半に出発し名鉄名古屋駅へ。急行岐阜行は 8 時 54 分発。岐阜には 9 時 27 分に到着。

名鉄岐阜駅は J R 岐阜駅よりやや北東に位置し、南から来た名古屋線と東へ行く各務原線を結び駅構内は逆 V 字の形をしている。各務原線の犬山行は 9 時 43 分発。J R の高山線と並走するが、高山線は単線で運行本数はかなり少ないが各務原線は複線で駅間も短く、生活の足になっている様子。

新加納 9 時 55 分着、下車したのは私だけだった。無人駅だし、トイレもない駅。暑くなってきたので薄着に着替えて、カメラを首に提げて出発。地図を片手に、名鉄と高山線の二つの踏切を渡って住宅地の中の道を北に向かって歩き出す。電柱に記された那加 X X 町という町名ばかりが続くことが気になった。

明治時代に九ヶ村が合併して那加村が誕生、昭和 15 年に町制に移行。昭和 38 年に周辺の町と合併して各務原市が出来たことで、各務原市の内旧那加地区であることを意味する町の名前になっているようだ。

「那加」という地名の起源については調べる時間がなかったのでわからないが、何か気になる地名である。



明治 9 年に陸軍砲兵演習場ができ、大正 9 年に陸軍各務原飛行場ができ、陸軍関係の軍需産業で栄えた町で、昭和 20 年、終戦直前に大規模な空襲を受けてかなりの被害が出たらしい。現在は自衛隊の岐阜基地となっている。

駅名になっている「新加納」という地名は、中山道の加納宿と鵜沼宿の間に出来た新加納という休憩を目的とした宿場。関ヶ原の戦いで功を上げた坪内利定が各務原地区 20 村を納める旗本となりこの地を拠点とし、陣屋も設けて陣屋の周辺に宿場町を形成したということらしい。

また、各務原という地名は「鏡作部（かがみつくりべ）」がいたことと関係しているらしい。こんなことを知るだけでも旅は充分面白い。

遠くに見える権現山を正面に置いて 5 分ほど歩くと、左手の宅地の間の畑で作業をしている男性と視線が合った。しばらく畑談義を中心とした立ち話をしていたら……

「石山？ 小学校の裏山ね、あの学校出たんだよ。俺たち子どもの頃にはきのこ採りに行った山だよ。」

「千葉から来たの？ 石山に登るだけのために？」

やがて車が対面交通出来そうな幅の道路に出た。正面に小

学校が見え、小学校の後ろに緑の小山も見えてきた。

那加第一小学校に突き当たったら東に進路を取り学校を左手に見ながら進むと保育所がある四つ角に出た。

これを左折するとすぐに左手に急登する石段が表れ、その入り口に「馬頭観世音菩薩」の石柱。

五十段あまりある石段を登っていくと硬そうな露岩の凹凸が始まり、足下に馬頭観音の祠が。

さらに高度を上げて行くと岩峰の先端に立派な石碑が見えてきた。土地改良区の記念碑のようだった。前後の小さなピークも含めて確認してみたが、どうやらこの記念碑が建つピークが最高点（頂上）と思われる。

時計を見ると 10 時 40 分。樹木の間から見える住宅地の連なりとその向こうの水田、そしてその向こうにさほど高くはないが山並みという落ち着いた物静かな風景。風雪に痛めつけられることもないと思われるこ

の地らしい優しい風景が印象的だった。

岩峰の先端でお茶を飲んで景色を楽しみながら一休み。下にある小学校から聞こえてくる「小学校らしい音」も景色にひと味加えてくれている感じがした。

ゆっくり石段を下り、復路は東側の隣の新那加駅に向かうことにした。住宅街、小さな水路、ちょっと変わったお店、老婆の立ち話などを楽しみながら歩き、新那加駅に11時46分に帰着。

この駅も無人でトイレもないし、駅前にあるのは踏切だけでお店など一軒もないので、岐阜に行って昼食ということにした。



新

新那加 11時56分発、岐阜に12時06分に到着。名鉄岐阜駅からJR岐阜駅まで歩いてみたが食事できるような店は見当たらなかったのので、駅ビルの中のレストラン街でそば屋を見つけて昼食。

昼食後は大垣へ移動して次なるテーマ「養老鉄道車窓の旅」。

以上